

公図結合

公図結合の操作手順を解説します。

複数の公図を図郭座標を利用して自動結合し、図面に転送します。



※公図結合は、公図自動結合オプション
プログラムです。

目次

公図結合

公図結合	1
1 公図結合起動	1
2 図郭範囲の指定	2
3 歪み補正	3
4 OCR機能の利用	5
5 画像編集	7
6 全体配置	9

公図結合

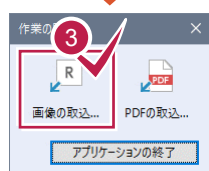
公図結合では、公図同士を効率よく重ねあわせることができます。
複数の公図を図郭座標を利用して自動結合し、図面に転送します。

1

公図結合起動

弊社が用意したサンプル画像を取り込み、操作します。

本書では、《CAD》起動後の画面から解説します。

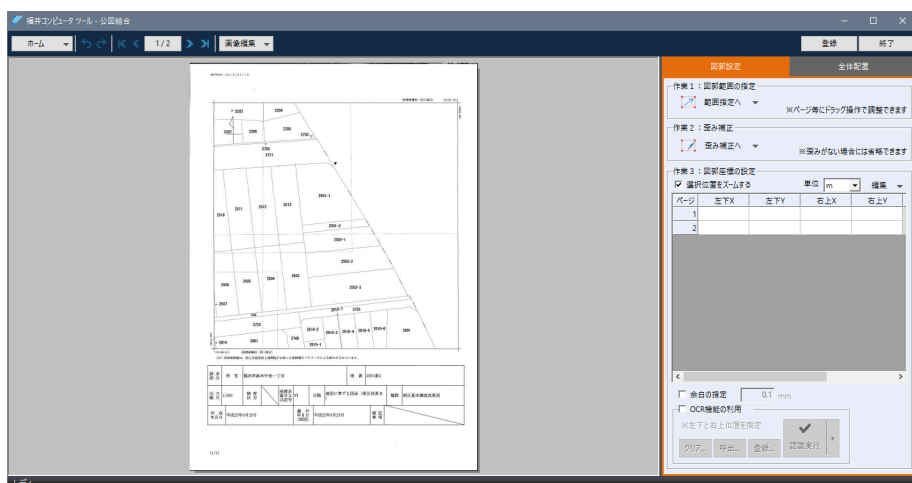


サンプル画像は、[マニュアル] の
[入門編 (サンプルデータ)] に
あります。



- 1 [汎用作図] タブをクリックします。
- 2 [ラスタ・写真] グループ - [OCR] - [公図結合] をクリックします。
- 3 [画像の取込] をクリックします。
- 4 2つのTIFFファイルを選択して、[開く] をクリックします。
- 5

OCR変換はモノクロ画像が対象です。
カラーの場合は、必ず [モノクロ化する] のチェックをオンにしてください。

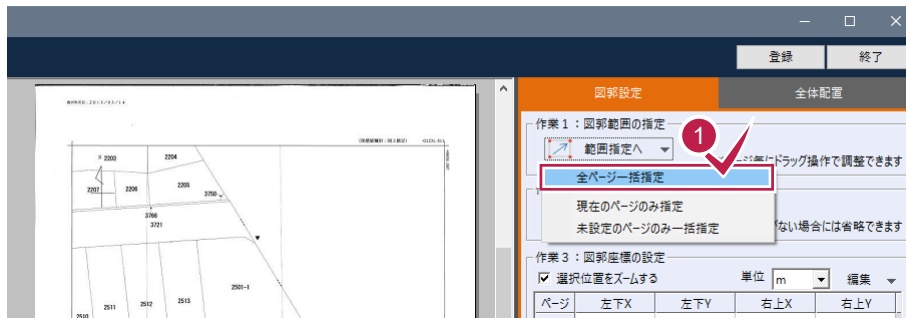


メモ 対象ファイルは、
イメージ (TIFF、BMP、
JPEG、PNG) および
PDF (※要 PDF 取込
オプション) です。

2

図郭範囲の指定

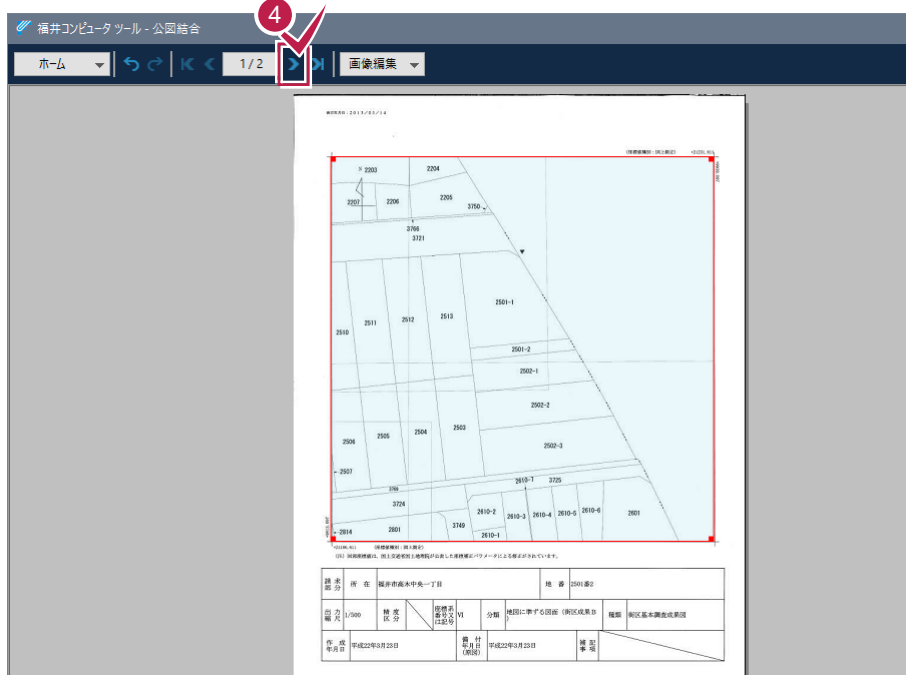
入力例では、図郭範囲を指定してすべてのページに設定します。



- 1 「範囲指定へ」 – 「全ページ一括指定」をクリックします。

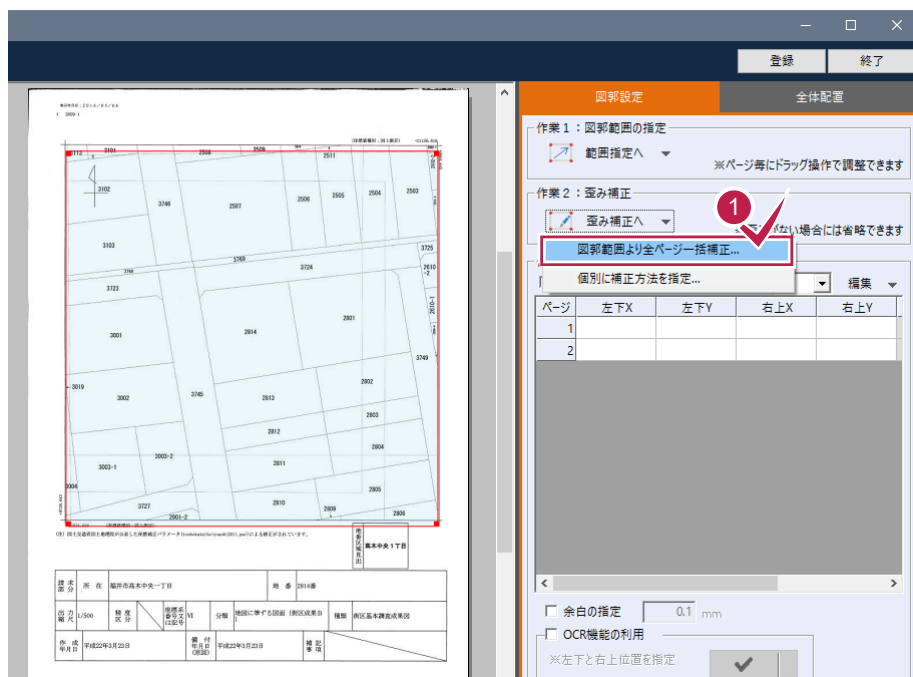


- 2
- 3 図郭領域となる2点をクリックします。

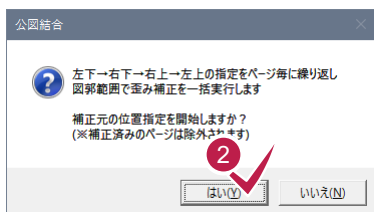


- 4 「次ページへ」をクリックして、全ページに図郭設定されていることを確認します。

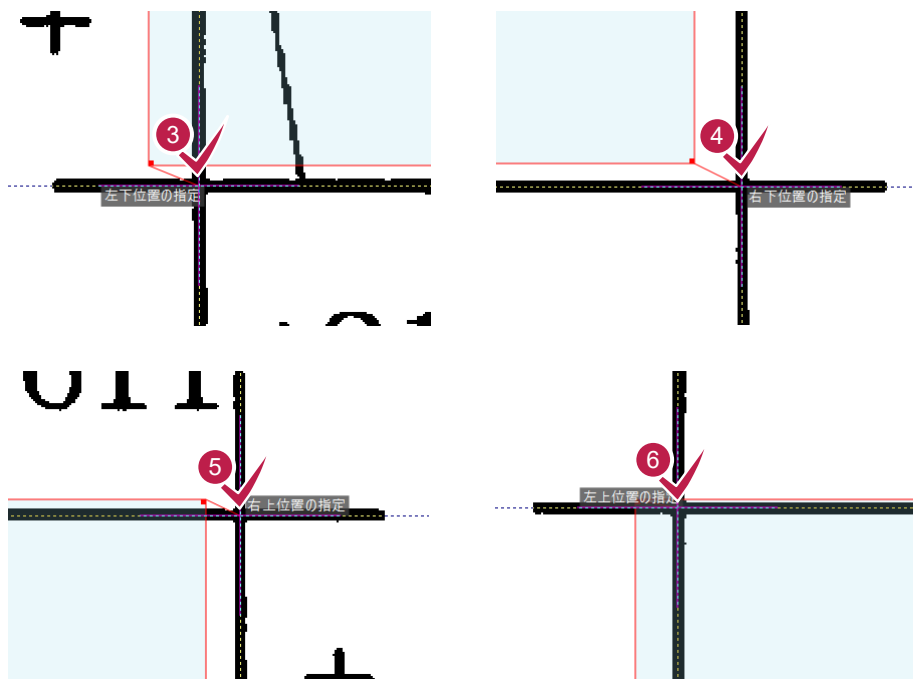
入力例では、すべてのページで図郭の歪み補正をおこないます。



- 1 「[歪み補正へ] – [図郭範囲より全ページ一括補正]」をクリックします。



- 2 「[はい]」をクリックします。

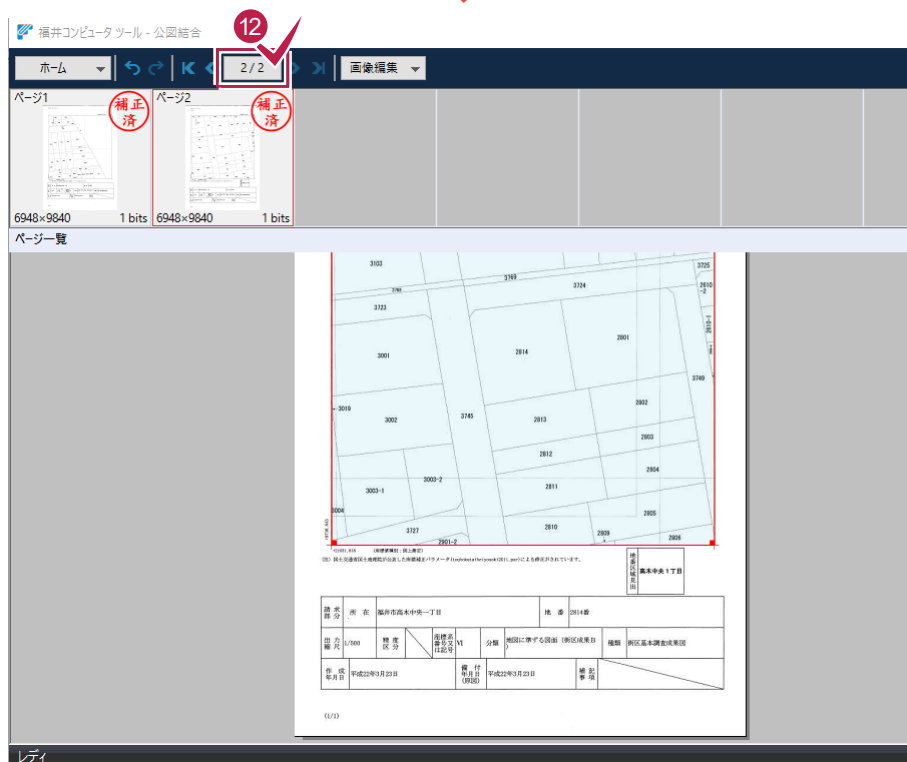
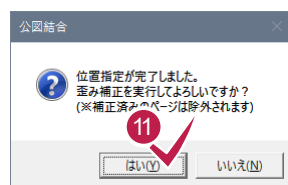
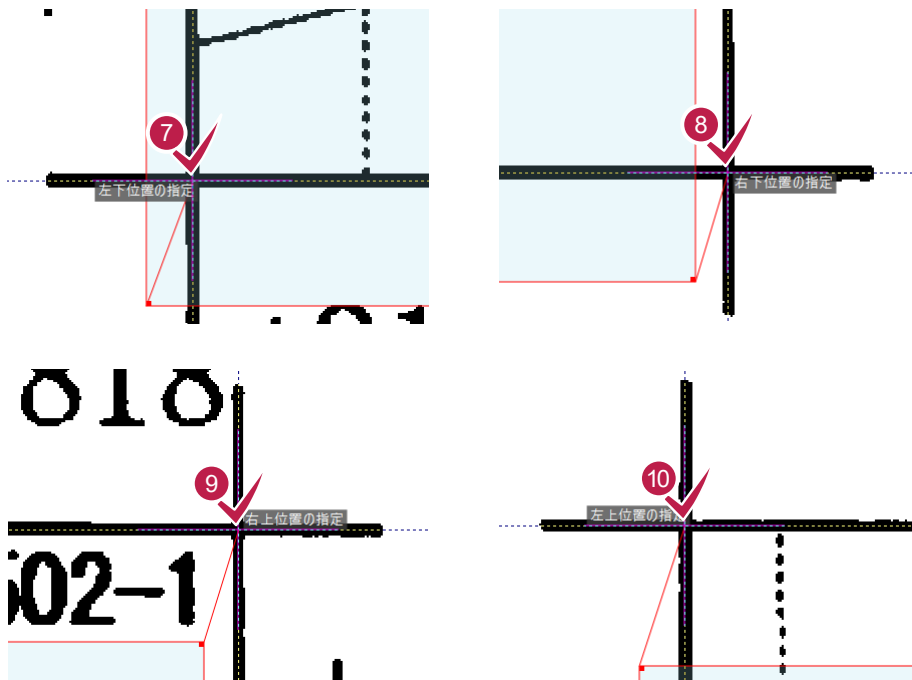


- 3 4 5 6 図郭範囲の四隅をそれぞれクリックします。



位置があっている場合は、右クリック「図郭座標を指定(Sキー)」もしくはSキーでスキップすることが可能です。





7 8 9 10

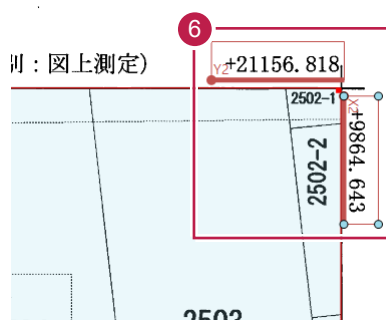
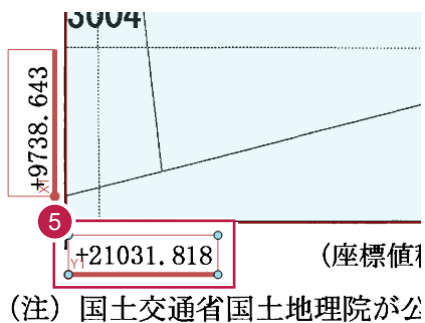
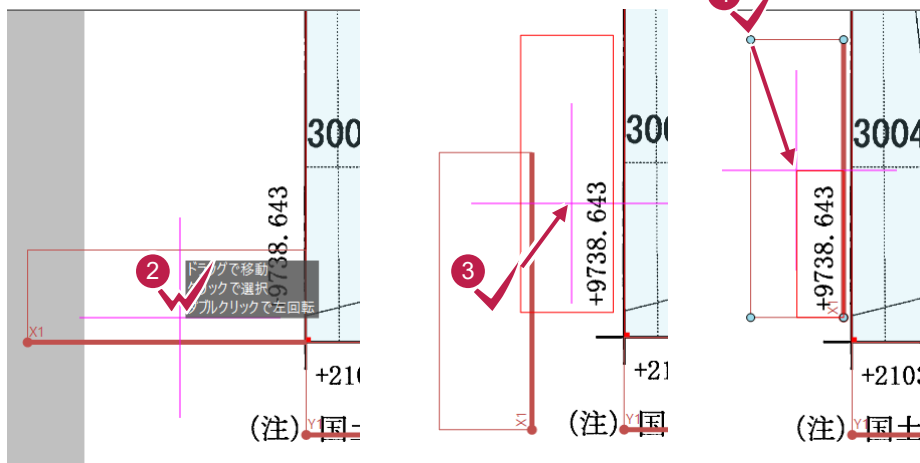
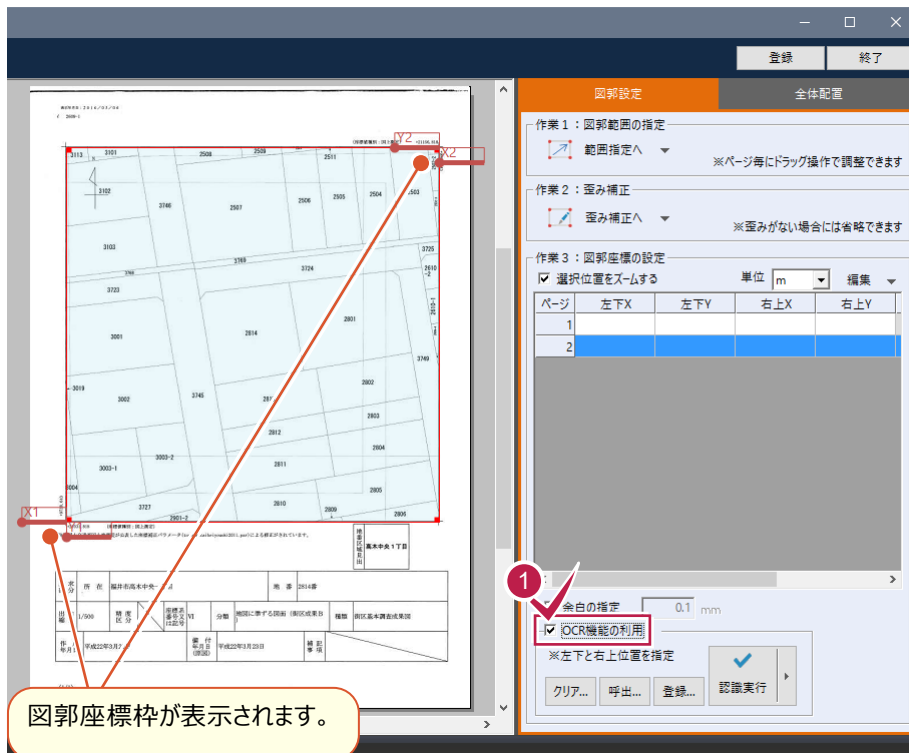
次ページも同様に四隅をクリックします。

11 「はい」をクリックします。

12 「ページ一覧の表示」をクリックして、補正済みページを確認します。

OCR機能を利用して、図郭座標枠の位置と大きさを調整します。

図郭座標が公図に書かれていない場合は、P.10以降を参照してください。



1 [OCR機能の利用] をクリックします。

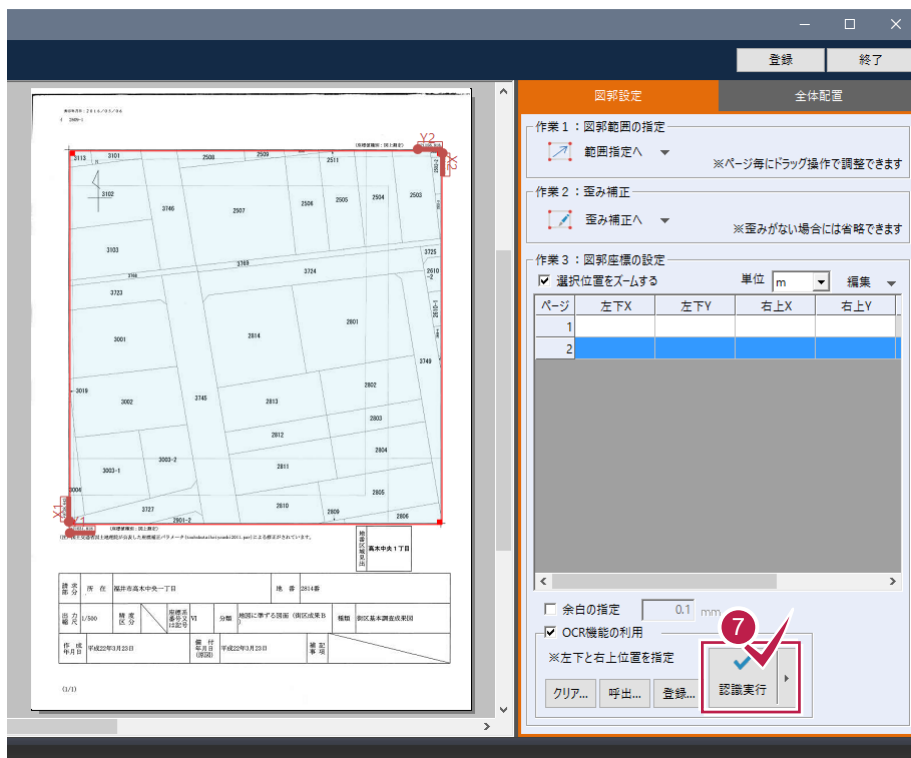
2 図郭左下のX1領域をダブルクリックして回転します。

3 領域をドラッグして移動します。

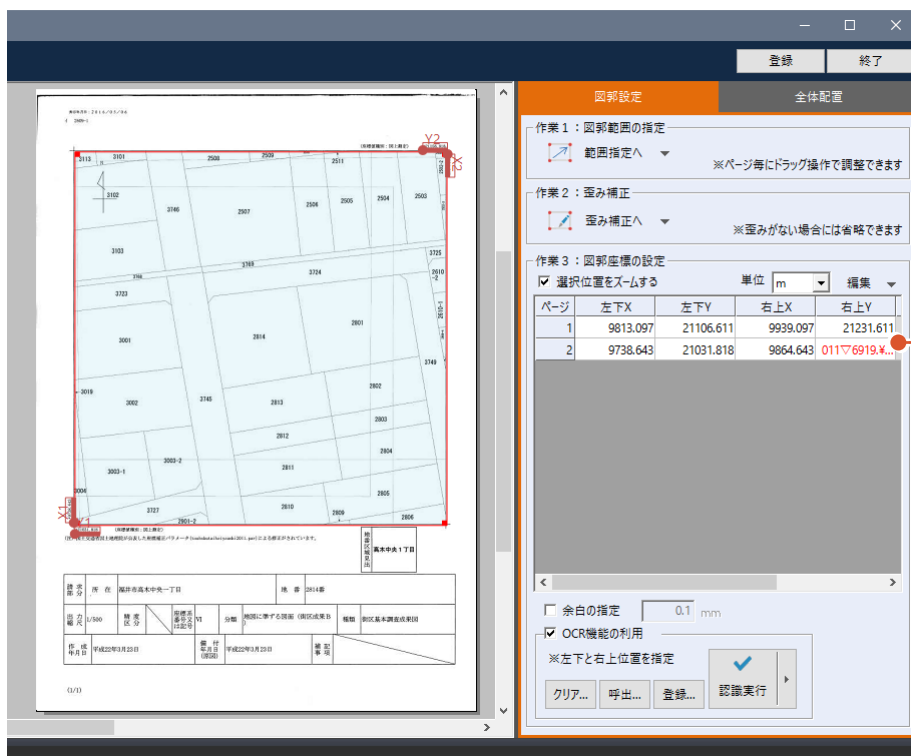
4 領域四隅●をドラッグしてサイズを調整します。

5 図郭左下のY1領域も同様に調整します。

6 図郭右上のX2、Y2領域も同様に調整します。

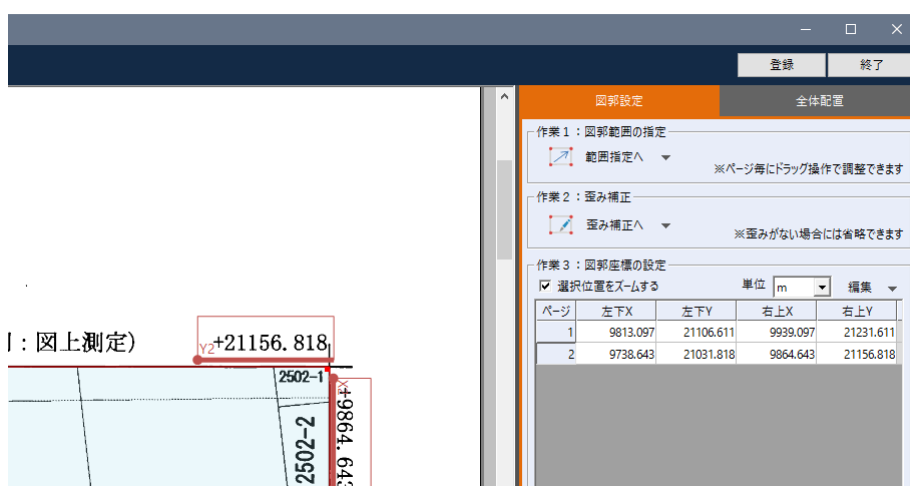
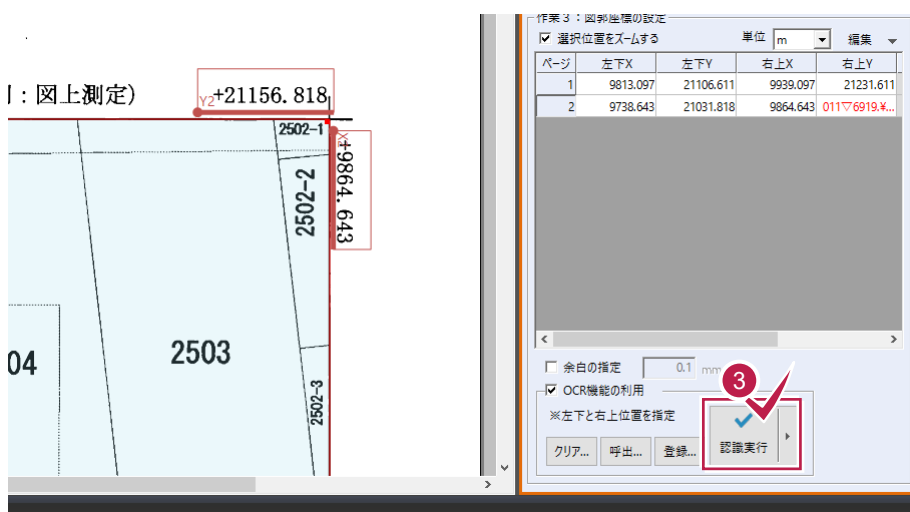
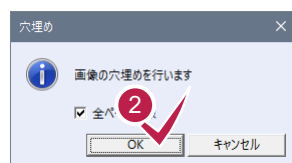


7 「認識実行」をクリックします。



OCR領域から座標値を取得し、誤変換されていることが確認できます。

「認識実行」で誤変換された場合、画像編集をおこないます。
 入力例では、「穴埋め」を実行して再認識します。

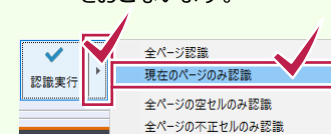


1 「画像編集」－
「穴埋め」をクリックします。

2 「OK」をクリックします。

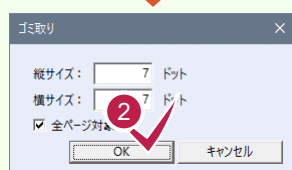
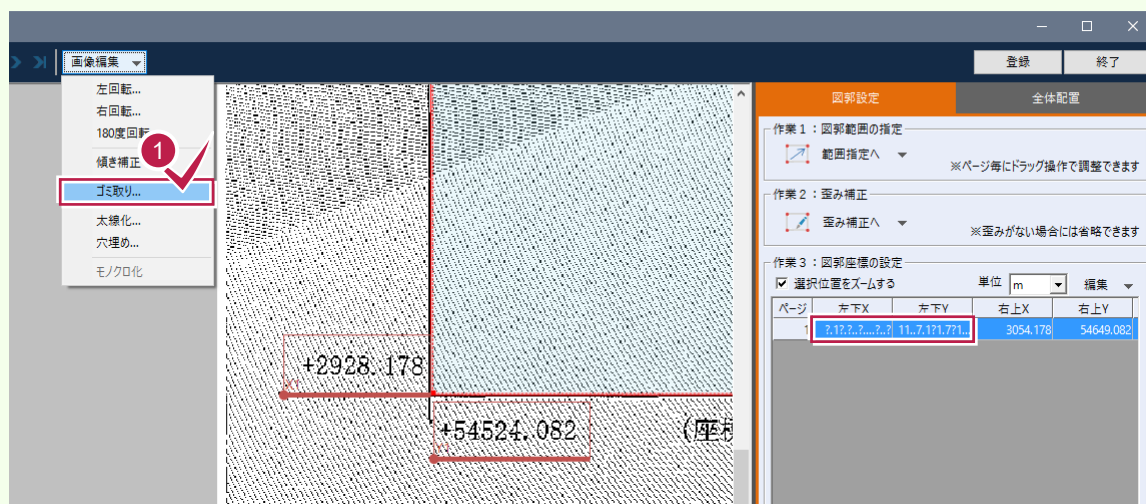
3 「認識実行」をクリック
します。

メモ 座標値の取り込みが
うまくいかないときは、
個別のページで取り込み
をおこないます。

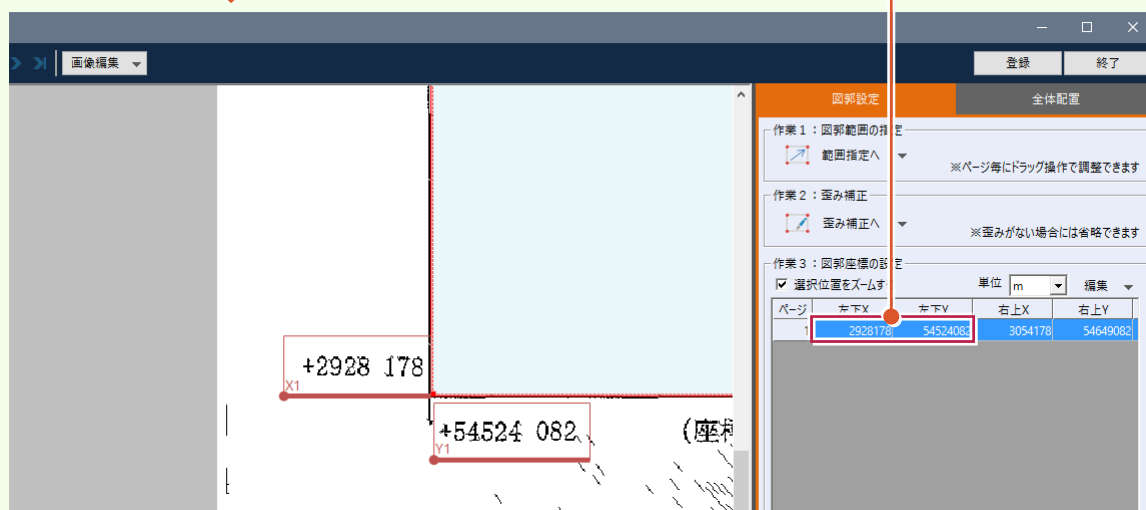
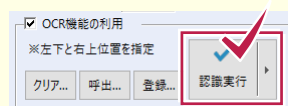




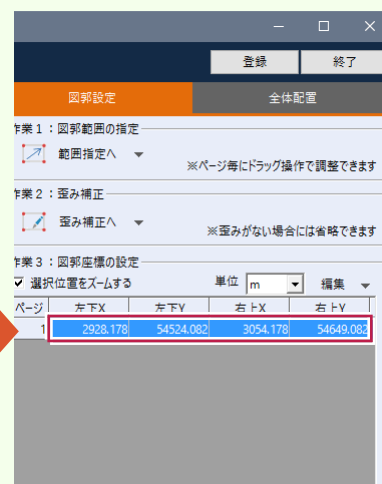
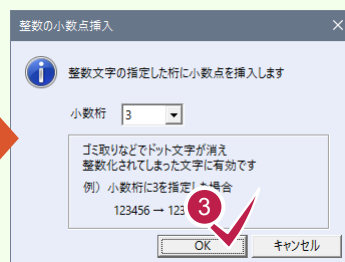
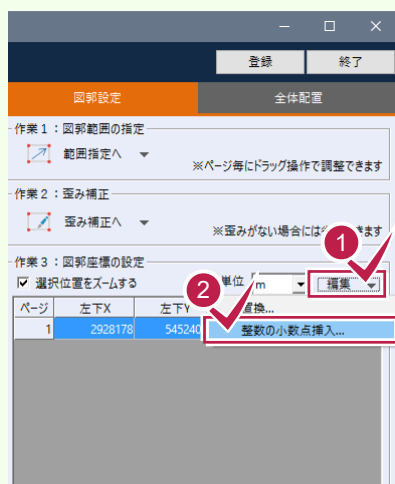
ゴミが多くて誤変換される場合は、[画像編集] - [ゴミ取り] をおこなってください。



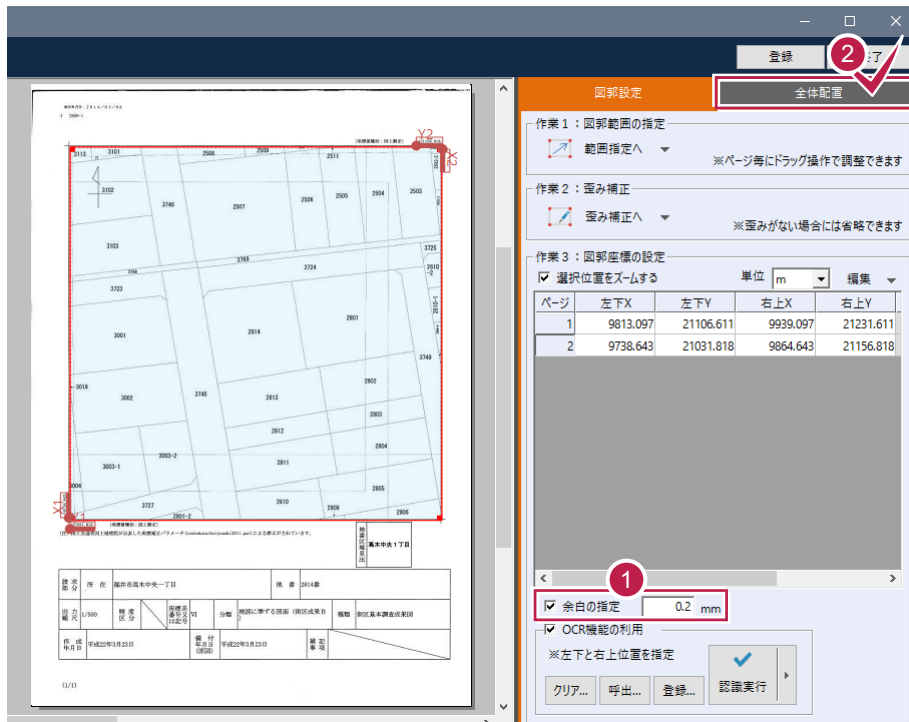
[認識実行] をクリックすると、座標値が取り込まれます。



小数点が認識されない場合は、[編集] - [整数の小数点挿入] で小数点を挿入します。

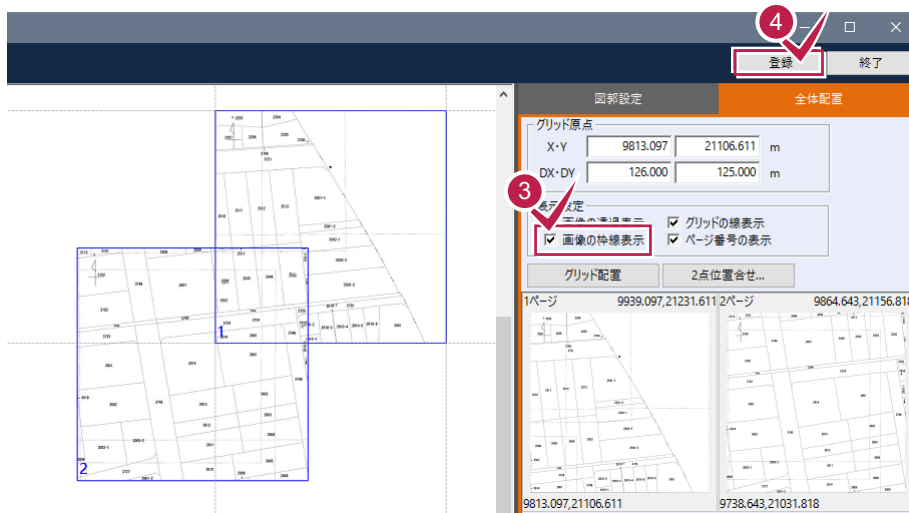


入力例では、余白を設定し図郭枠線を除いて結合します。



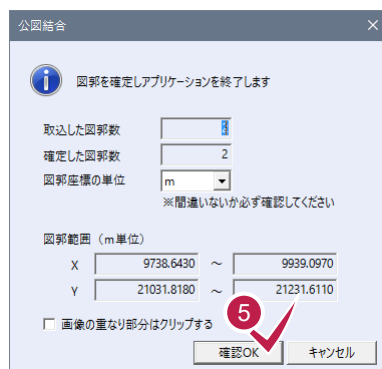
1 「余白の指定」のチェックをオンにし、「0.2」と入力します。

2 「全体配置」タブをクリックします。

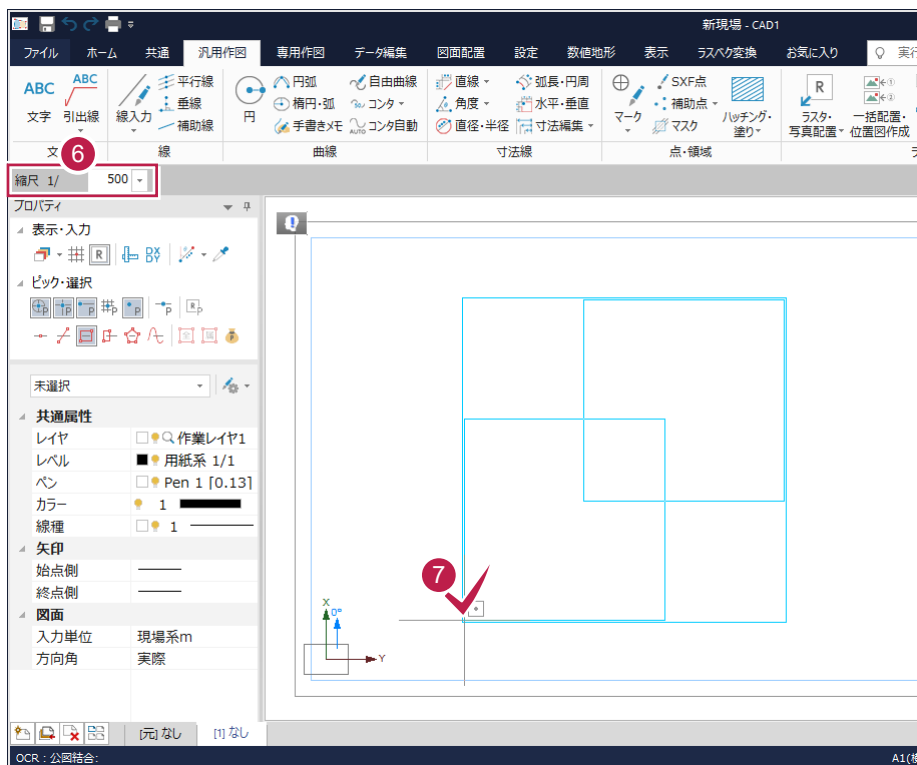


3 「画像の枠線表示」のチェックをオンにして、公図の重なりを確認します。

4 「登録」をクリックします。



5 「確認OK」をクリックします。

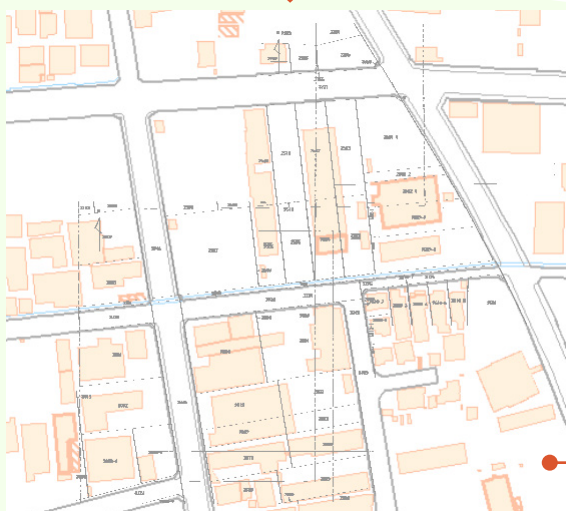
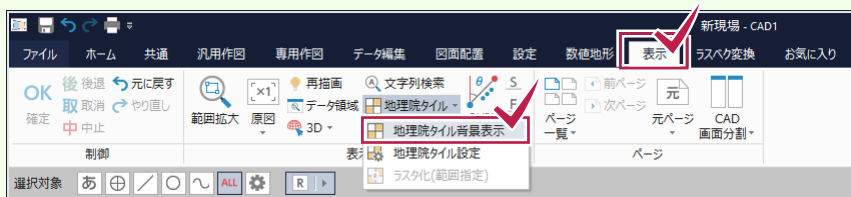


6 インプットバーで縮尺を設定します。
本書では、変更せずそのまま使用します。

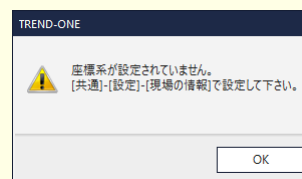
7 CAD上で配置位置をクリックします。



地理院タイル背景を表示して、位置を確認することができます。



「座標系が設定されていません。」メッセージが表示された場合は、[共通] タブ – [設定] グループ – [現場の情報] – [現場の情報] で座標系を設定してください。



配置した公図の座標系が正しいことが確認できます。



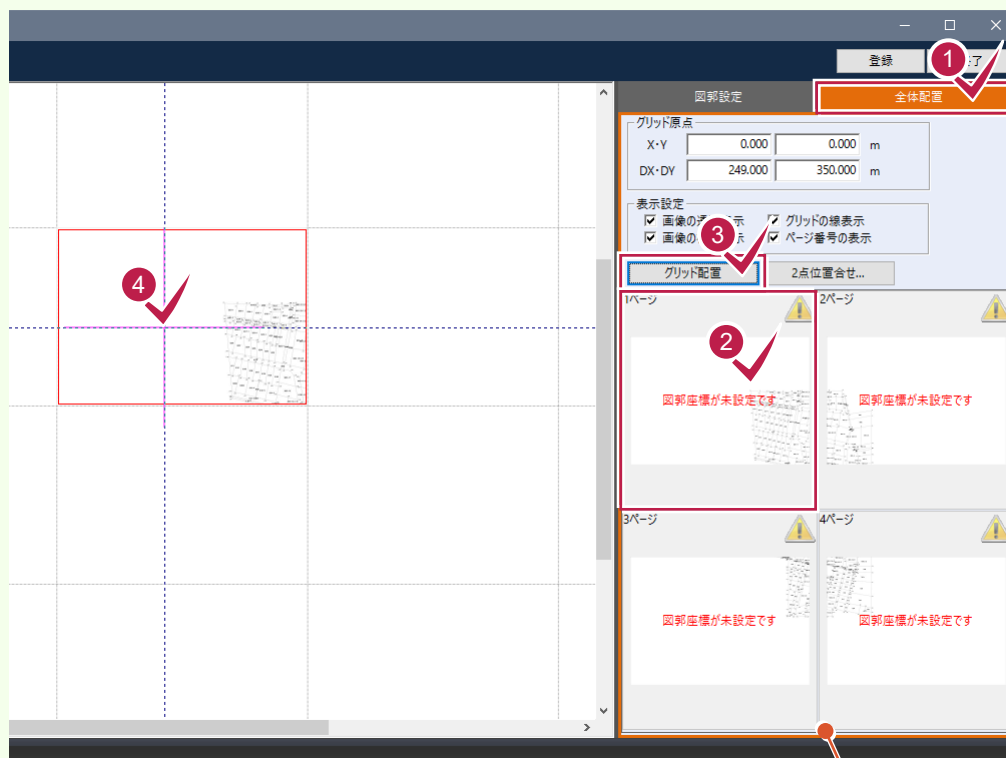
配置されたラスターデータは、GeoTIFF ファイル（座標系を持ったラスター）として書き込みできます。



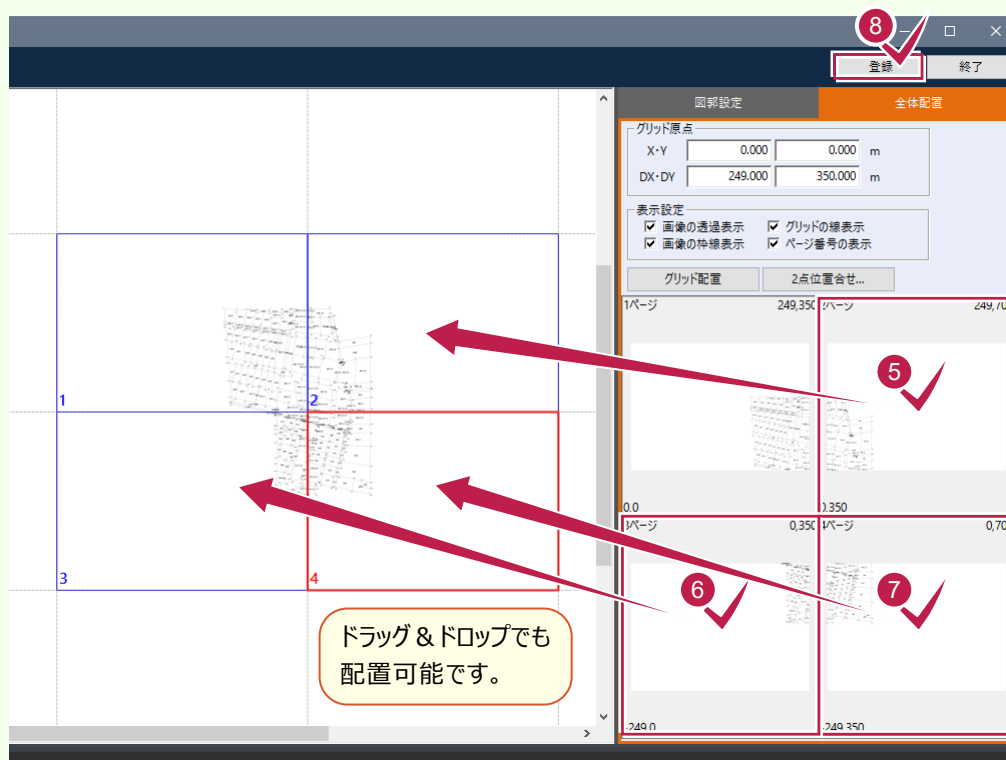
図郭をグリッドにあわせて配置し、公図を結合する

結合する公図が同じ図郭範囲で正しく分かれている場合は、[グリッド配置]を使用します。

ここでは、図郭範囲の指定、歪み補正後の画面から解説します。



サンプル画像は、[マニュアル]の
[入門編 (サンプルデータ)]に
あります。



ドラッグ＆ドロップでも
配置可能です。

図郭の 2 点を指定して配置し、公図を結合する

片方のみ座標値がわかる場合は、[2 点位置合せ] で図郭の 2 点を指定して配置し、公図を結合します。

[2 点位置合せ] ではサイズは伸縮しますが、回転はしません。1 点目の位置を基準に配置されます。

ここでは、図郭範囲の指定、歪み補正、片方のみ図郭座標の設定をおこなった後の画面から解説します。

